

学校自己評価実施の手引き

三重県の実態にあった手引き書を目指しています。ご意見、ご質問については、担当までご一報ください。

三重県総合教育センター

企画振興部 調査研究担当

〒514-0007

津市大谷町12番地

TEL 059-226-3526 (直通)

FAX 059-226-3706

三重県総合教育センター

目 次

I 基本的な考え方	1
1 私たちがめざす学校の姿とは	
2 動き出そう	
(1) まず足もとを見つめる	
(2) そして課題を明らかにする	
(3) 次に、全教職員の共通理解を図り、めざす姿を明確にする	
(4) 確かな教育を行う	
3 これからの評価活動	
(1) これまでの評価活動	
(2) これからの評価活動	
II 学校自己評価システムとは	3
(1) 誰が評価するのか	
(2) 情報の発信・受信と結果責任（アカウンタビリティ）	
(3) サイクルの継続と向上を考える	
*学校教育目標に向かう教育活動（イメージ図）	
III 学校自己評価システムの運用	6
1 学校自己評価システムの流れ	
2 基本的な実施内容	
PLAN	
DO	
CHECK	
ACTION	
IV 実施にあたって	11
V 資料	12
1 学校自己評価システムシート	
①PDCAサイクル確認表A	
②課題別評価表	
③PDCAサイクル確認表B	
2 平成12年度に実施された県立学校での取組実践項目	

I 基本的な考え方

1 私たちがめざす学校の姿とは

学習者起点の立場に立ち、子どもたちの豊かな心を育み、個性と創造性、意欲と活力に満ちた人づくりをめざす学校とは、

児童生徒と教職員一人ひとりが生き生きとしている「活力のある学校」であり、児童生徒や保護者、地域との確かな連携がとれている「信頼される学校」であると考えます。

子どもたちの豊かな成長のために、学校の在り方を見直し、活力に満ちた信頼される学校づくりをめざすための一歩を踏み出しましょう。

2 動き出そう

(1) まず足もとを見つめる

学校づくりのスタートは足もとを見つめることです。それは、次の二つの声に耳を傾けることではないでしょうか。

一つは、学習者である児童生徒、その保護者や地域の人々の声です。これまでは、学校に関わるこれらの人たちの声を聞き、それを生かすことが十分できていたとは言えない状況ではなかったでしょうか。

もう一つは、日頃ともに教育活動を実践している仲間（教職員）の声です。教科指導をはじめ生徒指導・進路指導・学校行事など、すべての教育活動について、機会をつくり話し合うことが大切です。様々な人々の声に耳を傾けて学校の状況を的確に把握することが大切です。

(2) そして課題を明らかにする

様々な声に耳を傾けて足もとを見つめていくと、あらためて児童生徒の良さや、学校としての良さに気づきます。また、これまで見過ごしてきた課題なども見えてきます。これらの伸ばしたい点、改善したい点などについて十分話し合い、現在の自分たちの学校の課題を明らかにします。

(3) 次に、全教職員の共通理解を図り、めざす姿を明確にする

足もとを見つめ、課題を明らかにするとともに、学校教育目標について全教職員の共通理解を図る必要があります。多くの学校で「教育方針」や「教育目標」をもとに「努力目標」等が設定されています。その努力目標等を「めざす姿」としてより分かりやすい具体的なものとして設定し、その姿を現実のものとするために、教職員一人ひとりがどのような教育活動を展開していくかを考えます。

(4) 確かな教育を行う

今、多くの人たちから学校が自ら適切な評価を行い、それをもとに効果的な教育活動を進めていくことが求められています。効果的な教育活動を行うためには、足もとを見つめ、課題を明らかにし、めざす姿を設定し、その姿に向かって目的・組織的な教育活動を展開し、結果の適切な評価をもとに、具体的な実行方策を設定することが大切です。

さらに、学校がこれら一連の活動をシステムとして継続的に機能させ、経過や結果などを、自ら公開していく姿勢を持つことが確かな教育につながると考えます。そして確かな教育を継続することが、ひいては公的機関に求められている責任の一つである「結果責任（アカウンタビリティ）」を果たすことにもなっていくと思います。

3. これからの評価活動

(1) これまでの評価活動

学校はこれまで、行事の後や年度末に教育活動を振り返り、互いに意見を出し合い、次への改善を図ることを目的として評価を行ってきました。

しかし、その評価活動には、次のようないくつかの問題点が指摘されています。

- ・ これまでの評価活動の多くは、行事が終わったときや、年度末などの教育活動が終了したときに行うことが多く、活動の途中で行うことが少なかった。
- ・ 関係者からの意見や感想が多く、具体性や客観性にやや欠ける面があった。
- ・ 次への課題は検討されるが、具体的な改善提案などの十分な話し合いがなされないままに年度を終えてしまうことが多かった。
- ・ 反省や評価をするときのもとになる資料が、意見を求めやすい校内の教職員に限定されがちであった。

(2) これからの評価活動

これからの評価活動は、評価することで見つけた改善点を次の活動に確実につなげていくことが何より大切になっていきます。

それに加えて、「改善を図る」という評価活動のねらいそのものについて考え直していくことも大切です。評価活動の結果から分かるものは、改善点だけではありません。児童生徒の持っている良さや、その学校の雰囲気や体制としての良さ、教職員の良さもあります。それらの良さを浮き彫りにしていくという視点を取り入れていくが必要になってきます。そのような考えから、この手引きでは、問題点を直すことを強く意識する「改善」ではなく、良さも含めて新しく次の一歩を踏み出す「更新」という言葉で説明します。

さらに、評価活動を具体的で客観的な事実にもとづいて行うことが、確かな教育を継続することや、結果責任を果たすために必要なことです。評価活動を支える具体的で客観的な事実を得るための一つの方策として、できるものについては数値化した基準等を利用していくことも検討してください。

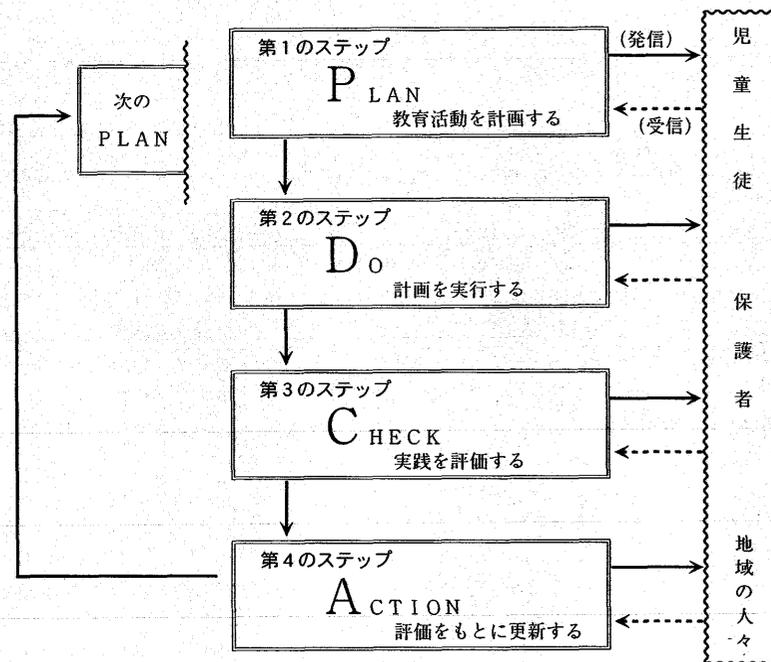
このようなことから、これからの評価活動において、次のようなことを行うことが大切になってきます。

- 活動の後に一度だけ評価するのではなく、途中で何度か中間評価を行う。
- 努力目標等を実現するために、教育活動の達成状況を判断する具体的でわかりやすい基準を設定し、その基準にもとづいて行う。
- 中間評価を踏まえて教育活動や基準を見直したり修正したりするなど、常に目の前の児童生徒の実態に合わせて柔軟に取り組む。
- 多くの意見を生かしたより客観的な評価活動を行う。
- 児童生徒・保護者・地域の人々等が納得できる、具体的あるいは客観的な事実をもとに、結果責任（アカウンタビリティ）が果たせるようにしていく。

確かな教育活動が継続され、納得と信頼を得るためには、評価活動が有効に機能しなくてはなりません。そのためには、上記のような評価活動を学校経営の中の一つのシステムとして確立させておくことが大切です。

II 学校自己評価システムとは

日々の教科指導をはじめ、学期としてまた年間としての教育活動、種々の学校行事などのあらゆる活動の中には共通する次のようなステップがあると考えます。



P・D・C・Aのそれぞれのステップは、関連しながらサイクルとして動いていきます。

児童生徒の姿が、学校教育目標やめざす姿で示されている姿に近づくためには、一つひとつの具体的な教育活動が「PDC Aのサイクル」によって動くとともに、そのサイクルが学校教育目標に向かって繰り返されていくが必要になってきます。つまり一つひとつのステップを意識し、そのステップをサイクルとして繰り返していく「更新のためのシステム」を学校の中に確立していくことが大切です。

教育活動を支えるこの PDC A のサイクルを生かし、評価を継続的な更新に結びつけていくシステムを「学校自己評価システム」と定義しました。

(1) 誰が評価するのか

学校における教育活動は、学校が自らの責任のもとに、主体性をもって意図的・計画的に行います。ですからその評価も、学校が主体的な活動として責任を持って行わなければなりません。またその評価には、より客観性を持たせる工夫が必要です。そのために大切なことは、評価の資料となるものを、学校としてどれだけ幅広く集めるかということです。とりわけ学校の教育活動に対する様々な人たちの意見はとても大切です。

(2) 情報の発信・受信と結果責任（アカウンタビリティ）

評価の資料となる意見を幅広く集めるためには、教職員をはじめ児童生徒や保護者、地域の人々、教育関係機関など、学校に関わる多くの人たちからの意見を受け取ることができなければなりません。そのためにはまず、学校教育目標やめざす姿、そしてめざす姿を実現するための教育活動等を知ってもらう必要があります。

学校自己評価システムでは、このように学校からどんな情報をどんな形でいつ発信するか、また学校に関わる人々からの情報をいつどんな形で受信するか、といった情報の発信と受信が大きな要素になります。

様々な情報を発信することは、公的機関として果たすべき責任の一つである「結果責任（アカウンタビリティ）」につながっています。学校が教育活動の目的やその結果を伝え、児童生徒や保護者、地域の人々の納得と信頼を得るためには、必要な情報を必要ときに提供することが大切です。そしてその情報の根拠として、具体的で客観的な資料を用意しておく必要があります。

*情報の発信・公開にあたっては、個人情報の保護などを含め、今後その在り方を学校現場をはじめ関係者で十分検討していく必要があります。

(3) サイクルの継続と向上を考える

一つひとつの教育活動の中にあるPDCAのサイクルを確実に実行することによって、次のサイクルでめざす姿が明確になります。さらに、その姿に向かってサイクルを積み重ねる、といった継続性が生まれることで、更新が確かなものになっていきます。

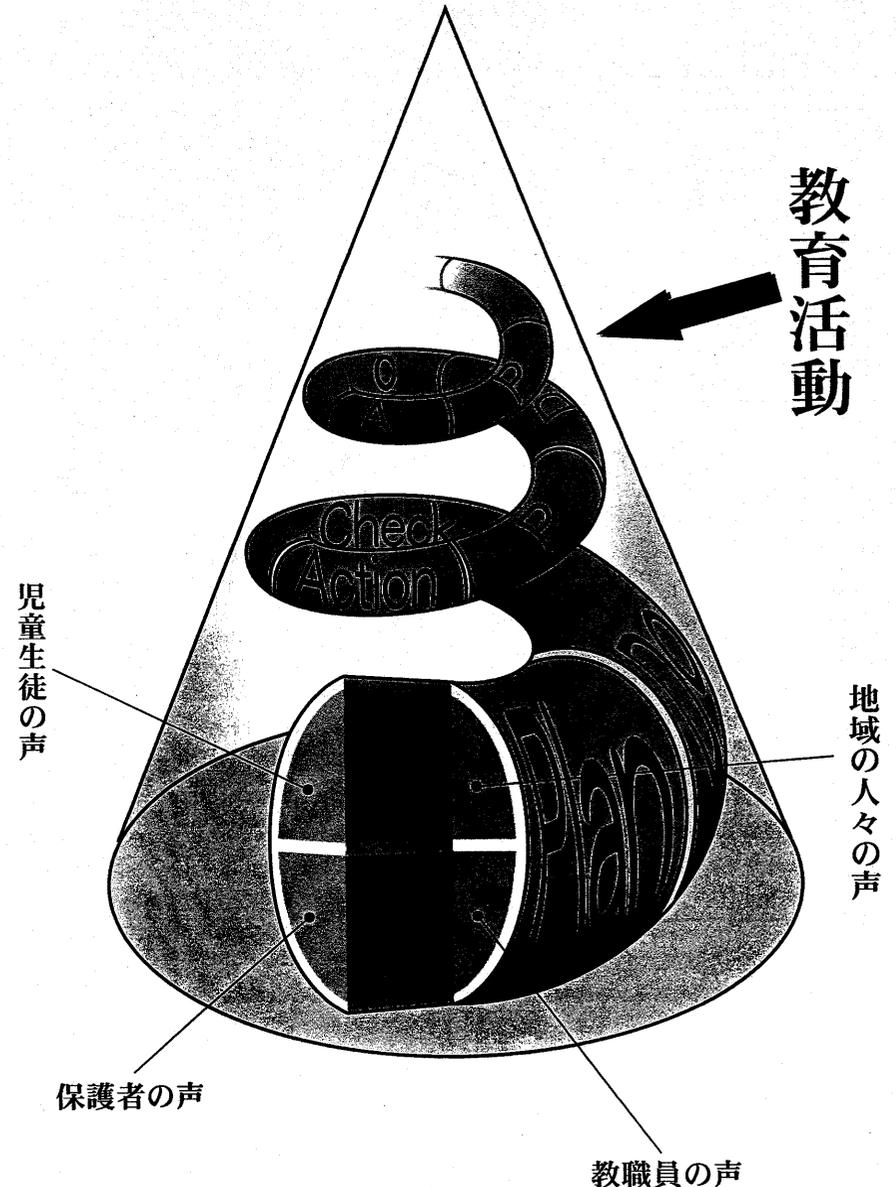
その結果、学びの場が児童生徒一人ひとりの個性と創造性をより尊重した学習者起点のものへと再構築され、活力のある学校・信頼される学校が創られていくと考えます。

学校自己評価システムの考え方を一つの図にしてみると、右のようになります。

- ・学校教育目標に向かって、個々の具体的な教育活動が繰り返されながら向上し、その目標に近づいていく。
- ・個々の教育活動はPLAN・DO・CHECK・ACTIONの4つのステップにより展開される。
- ・P・D・C・Aそれぞれのステップの中に児童生徒、保護者、地域の人々、そして教職員の願いや意見などが反映されている。

学校教育目標に向かう教育活動(イメージ図)

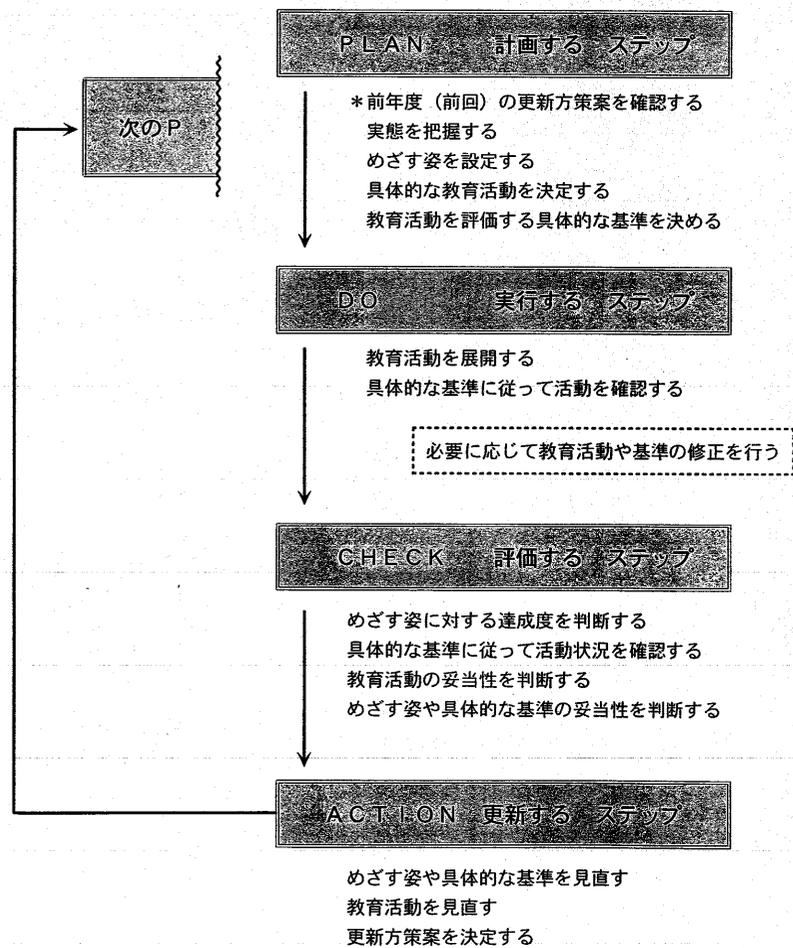
学校教育目標



III 学校自己評価システムの運用

1. 学校自己評価システムの流れ

ここでは、学校自己評価システムの流れについて、学校教育目標に向かった教育活動の中の一つのサイクルを取り上げて説明していきます。



*ステップをつなぐ矢印は、各ステップの連続性を示しています。ステップの中の活動の順序性を示すものではありません。

2. 基本的な実施内容

PLAN 計画する ステップ

*前年度（前回）の更新方策案を確認する

継続的な実践の場合は必ず前年度又は前回の更新方策案を確認することから始めます。特に、年度をまたぐような場合は、担当者が異動していることもあり、この確認作業によって、それまでの評価や更新方策案を確実に生かすことができます。

実態を把握する

学校教育目標に関する児童生徒の実態を把握します。より正確に把握することが大きな効果を生みます。資料を集めたり、関係者が意見を出し合ったりするなど工夫します。その時に、子どもたちの願いや保護者・地域の人々からの声を聞くことも大切です。

めざす姿を設定する

捉えた実態とめざす姿から、つきたい力や態度等を具体的な形で設定していきます。具体的なめざす姿については、子どもたち自身がその必要性を認識していることが大きな力になります。そうすることで、到達度が子どもたちや教職員にはっきり意識できるようになり、継続的な更新が行いやすくなります。

具体的な教育活動を決定する

めざす姿に近づくためにどんな教育活動が有効かを考え決定します。これまでの活動を参考にするとともに、目の前の児童生徒の実態に合った新しい活動を工夫する柔軟性が大切です。そして教育活動やその具体的な基準についての広報活動を行います。

教育活動を評価する具体的な基準を決める

教育活動を決定したら、必ずそれを評価することを考えます。教育活動を分析し、その活動に関して、これまでの実施状況等をもとに具体的な基準を設定します。その基準により、達成したかどうかの判断を行うわけですから、その基準について教職員、時には児童生徒を含めた共通理解を図ることが大切です。

DO 実行する ステップ

教育活動を展開する

計画された教育活動を展開します。その時に保護者や地域の人たちの参画について検討する姿勢が望まれます。

具体的な基準に従って活動を確認する

教育活動の途中で児童生徒の実態の変化や活動の状況などを、具体的な基準に従って確認します。その結果を検討することで、教育活動の次の段階が見えてきます。

(必要に応じて)

必要に応じて教育活動や具体的な基準の修正を行う

具体的な基準による確認の結果から判断し、児童生徒の実態により適した活動に変更することも大切です。また基準の適正さも検討します。
修正を行うときには、その理由を明確にしておく必要があります。

CHECK 評価する ステップ

めざす姿に対する達成度を判断する

児童生徒の達成状況を判断します。

具体的な基準に従って活動状況を確認する

教育活動を具体的な基準に従って確認します。活動の状況を的確に判断することが大切です。

教育活動の妥当性を判断する

確認したことをもとに、自らの教育活動を振り返ります。さらに、子どもたち自身が自己評価や相互評価を行った結果や、教育活動に対する子どもや保護者、地域の人々の意見などを集約します。そして、教育活動の妥当性を検討します。

めざす姿や具体的な基準の妥当性を判断する

評価結果の検討から、当初設定しためざす姿や具体的な基準が、児童生徒の実態に対して適切なものであったかを判断します。

ACTION 更新する ステップ

めざす姿や具体的な基準を見直す

評価結果から判断し、次のめざす姿や具体的な基準をどこに置くのかを検討します。

教育活動を見直す

教育活動に対する評価から、活動を見直します。良かった点、悪かった点をつぶさに見つめ、その根拠を明らかにしておきます。見直すための資料の一つとして、子どもたちや保護者、地域の人々の意見が把握されていることも大切です。

更新方案案を決定する

評価結果と活動の見直しから、更新の方向性や活動の具体的な組み立て、活動を支える学校としての体制や教育環境の再設計などを検討し、その結果を次のPLANに確実につなげる手だても整えておきます。

IV 実施にあたって

- * この手引き書は、各学校が学習者起点の立場に立って学校教育を推進するための参考となるよう作成しました。
- * 学校自己評価システムを活用して評価活動を実施するのは、学校教育推進のためであり、評価結果を学校間の比較や人事考課等に使用することを目的とするものではありません。
- * この手引き書で示していることや、資料として付けてあるシート等は参考例です。各学校の実態や、取組課題に合わせて適切な評価活動が行われるように検討してください。
- * 実施にあたっては、校内研修等を通じ、教育目標や努力目標等の再確認を行ったり、これまでの評価のあり方や課題などについて十分話し合ってください。その上で学校自己評価や計画的な評価活動についての共通理解や検討を行ってください。学校自己評価システムを定着させるためには、各学校の実態に即した手順や、使いやすい独自のシートの開発が必要です。手引き書を参考に、よりよいものをめざしてください。
- * 学校自己評価システムを活用した評価活動の実施にともない、その取組状況や課題、具体的な教育活動、中間評価、そして結果などを、PTA総会や懇談会など直接的に伝える機会をはじめ、学校からのたよりやホームページなどを使い、積極的に発信していくことを検討してください。
- * 教育は主体的な実践の積み重ねによって実現されます。この手引き書の発行を契機に各学校で評価活動についての主体的な取組がなされることを願っています。
- * 三重県の学校の実態にあった手引き書の作成を心がけています。取組の中から出てきた課題、優れた方法や実践を反映させながら、今後手引き書を修正していきます。

V 資料

資料1 (学校自己評価システムシートについて)

ここでは3つのシートについて説明します。

- ① PDCAサイクル確認表A } セットで使うことを想定しました。
- ② 課題別評価表 }
- ③ PDCAサイクル確認表B } 行動の確認と評価の両方記入することを想定しました。

学校自己評価システムシート全般について

- これら3つのシートは全て参考例です。
- これらのシートは全ての教育活動において使用するわけではありません。学校自己評価システムにそった活動について、その流れや結果を明らかにするために使用するものです。
- 学校全体で取り組む実践から、教科会や一人ひとりの授業改善等、取り組む範囲や担当者の数など様々な場合が想定されます。
- 取組課題やその担当者、責任者等を確認表に明確にします。
- これらのシートを、教育活動をより確実に行うために、計画の時から使用することもできます。また確認用として教育活動の後に使用することもできると考えます。

① PDCAサイクル確認表A

- 実態把握は、計画の全ての段階に係わると考えます。計画全体の中で、確実な実態把握が行われるように、実態把握の時期や方法を検討してください。
- スペースを利用して、参考資料(会議の事項書、配布物等)の名称をメモしておくといでしょう。
- 全体の流れの理解や、手順の確認を目的にしています。具体的な項目や評価の結果などは、課題別評価表に記載します。

② 課題別評価表について

- 誰が見ても分かるように、必要なことを簡潔に書くことが大切です。検討事項や詳しい資料などが必要な場合は、資料を添付したり資料名やその保管場所を明記しておくといでしょう。活動の流れや、更新方策案が分かりやすく書かれていると、引継書として利用することもできます。
- 中間評価については、取組課題や計画された教育活動等により、適切な時期、回数を考えてください。

③ PDCAサイクル確認表B

- 行動の確認と評価の両方を記入することを想定しました。スペースを使って必要事項をメモし、一枚でサイクル全体を把握できるようにします。

1 学校自己評価システムシート (例)

① PDCAサイクル確認表A

取組課題	担当者	実態把握
	責任者	
計 画	継続課題の更新方策案確認 <input type="checkbox"/> 更新方策案の確認を行った	<input type="checkbox"/> 課題に関連した実態把握を行った <input type="checkbox"/> 次の人たちからの意見を聞いた <input type="checkbox"/> 児童生徒 <input type="checkbox"/> 保護者 <input type="checkbox"/> 地域の人 <input type="checkbox"/> 学校評議員 <input type="checkbox"/> 教職員
	課題の設定 <input type="checkbox"/> 同課題で取り組む <input type="checkbox"/> 課題を修正して取り組む <input type="checkbox"/> 新たな課題で取り組む	
	めざす姿の設定 <input type="checkbox"/> 実態把握を基に、つけたい力や態度等、具体的に設定した	
	具体的教育活動設定 <input type="checkbox"/> めざす姿を達成するための教育活動を設定した	
	評価のための具体的な基準作成 <input type="checkbox"/> 各具体的教育活動に対する数値目標を設定した <input type="checkbox"/> 評価のための基準を作成した <input type="checkbox"/> 教育活動及び評価の計画を次の人たちに発信した <input type="checkbox"/> 児童生徒 <input type="checkbox"/> 保護者 <input type="checkbox"/> 地域の人 <input type="checkbox"/> 学校評議員 <input type="checkbox"/> 教職員	
	実践 <input type="checkbox"/> 計画どおり実践を行った <input type="checkbox"/> 計画どおり実践を行えなかった <input type="checkbox"/> 情報発信のために実践記録や資料等を保存した	
評 価	評価の実施 <input type="checkbox"/> 活動状況を確認した <input type="checkbox"/> 達成度を確認した <input type="checkbox"/> 次の人たちからの意見を聞いた <input type="checkbox"/> 児童生徒 <input type="checkbox"/> 保護者 <input type="checkbox"/> 地域の人 <input type="checkbox"/> 学校評議員 <input type="checkbox"/> 教職員	
	評価結果の検討 <input type="checkbox"/> めざす姿や基準の妥当性を判断した <input type="checkbox"/> 教育活動の妥当性を判断した <input type="checkbox"/> 次の人たちに評価の結果を発信した <input type="checkbox"/> 児童生徒 <input type="checkbox"/> 保護者 <input type="checkbox"/> 地域の人 <input type="checkbox"/> 学校評議員 <input type="checkbox"/> 教職員	
更 新	めざす姿や基準の見直し <input type="checkbox"/> 修正する必要はない <input type="checkbox"/> 修正する必要がある	
	教育活動の見直し <input type="checkbox"/> 良かった点とその根拠を明らかにした <input type="checkbox"/> 悪かった点とその根拠を明らかにした	
	更新方策案の決定 <input type="checkbox"/> 更新の方向性を検討し、まとめた <input type="checkbox"/> 教育活動の具体的な更新方策を検討し、まとめた <input type="checkbox"/> 学校としての体制や教育環境の再設計を検討し、まとめた <input type="checkbox"/> 次回も同課題で取り組む必要がある <input type="checkbox"/> 次回は同課題で取り組む必要はない	

② 課題別評価表

取組課題	担当名	
	責任者	
継続課題の更新方策案確認		実態把握 取組課題や具体的教育活動に関する児童生徒の実態を記述する。
めざす姿 つけたい力や態度等具体的に書く。		
具体的教育活動 めざす姿に近づくための教育活動を書く。		

<具体的な基準>

	5月	4月	3月	2月	1月
具体的な教育活動を評価するために、行動や数値等を使った具体的な基準を設定する。					

<中間評価>

活動の 確認 評価	◎月◎日現在		◎月◎日現在	
	実施状況	達成率	実施状況	達成率
中間評価の結果を数値や文章で記述する。 評価のための資料等の保存場所等も明記する。				

<教育活動・基準の修正>

月/日	教育活動の修正	基準の修正
中間評価の結果を受けて修正する必要があったものを記述する。		

<評価>

教育活動の 確認 評価	実施状況		評価	
	5月	4月	3月	2月
具体的な基準に従って活動状況を確認し、自らの教育活動を振り返ります。 その結果をもとに、教育活動の妥当性やめざす姿に対する到達度、めざす姿や具体的基準の妥当性も判断し記録する。				

<更新方策案提案>

更新の方向性や活動の具体的な組み立て、活動を支える学校としての体制や教育環境の再設計などを検討しまとめるとともに、次の担当者に引き継ぐ内容や次のPLANにつなげる手立ても整えておく。

③ PDCAサイクル確認表B

取組課題	担当名	
	責任者	
計 画	<input type="checkbox"/> 更新方策案の確認を行った <input type="checkbox"/> つけたい力や態度等、めざす姿を具体的に設定した <input type="checkbox"/> めざす姿を達成するための教育活動を設定した <input type="checkbox"/> 具体的な基準を作成した <input type="checkbox"/> 教育活動及び評価の計画を発信した (めざす姿や具体的な基準)	<input type="checkbox"/> 課題に関連した実態把握を行った <input type="checkbox"/> 次の人たちからの意見を聞いた <input type="checkbox"/> 児童生徒 <input type="checkbox"/> 保護者 <input type="checkbox"/> 地域の人 <input type="checkbox"/> 学校評議員 <input type="checkbox"/> 教職員 (特記事項)
	実 行	<input type="checkbox"/> 計画どおり実践を行った <input type="checkbox"/> 情報発信のために実践記録や資料等を保存した (実践時に気づいたこと)
評 価		<input type="checkbox"/> 活動状況を確認した <input type="checkbox"/> 評価のための資料を多くの人から集めた <input type="checkbox"/> めざす姿や基準の妥当性を判断した (評価結果)
	更 新	<input type="checkbox"/> めざす姿や具体的な基準を見直した <input type="checkbox"/> 更新方策案を作成した (更新方策案)

2 平成12年度に実施された県立学校での取組実践項目

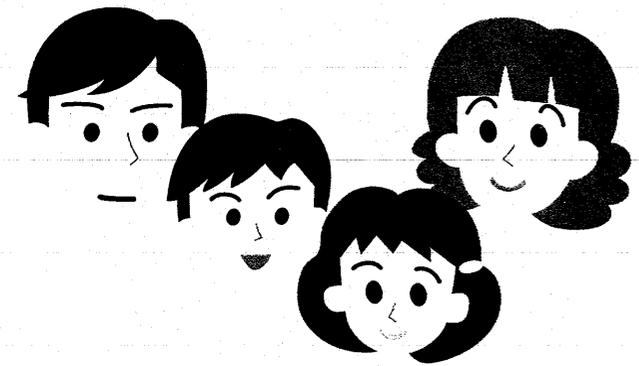
- ・時間の厳守
- ・生徒の喫煙防止
- ・登校時間の厳守
- ・遅刻の減少
- ・基本的生活習慣の確立
- ・基本的マナーを身につけよう
- ・整理整頓の徹底
- ・挨拶の励行
- ・登校時のバス乗車マナーの向上
- ・健康診断後の事後治療
- ・生徒保健委員会の活性化
- ・単車通学生の交通安全指導
- ・自転車通学安全指導
- ・中途退学者の減少
- ・スクーリング・添削指導の充実と社会性の育成
- ・人権教育の推進
- ・同和教育の推進、報・連・相システムの確立
- ・心のかよった同和教育の実践
- ・仲間づくり
- ・読書の習慣化
- ・図書貸出数の増加
- ・豊かな人間性確立のための「朝の読書」の効果的な実施
- ・学校環境改善
- ・教育環境の美化・充実
- ・教育活動の充実による休退学者数の減少
- ・出席率の向上
- ・節電
- ・節約
- ・光熱水量費の削減
- ・清掃活動の徹底
- ・ゴミの減量と分別リサイクルの推進
- ・環境美化に対する生徒への意識づけと校内外のゴミの減量化
- ・資源ゴミ完全分別収集運動
- ・教室等の消灯の励行、戸締りの励行
- ・自己表現力の育成
- ・進路意識の育成
- ・2年生全員の職場体験実習の実施
- ・21世紀への学校改革へ向けて
- ・単位制の趣旨の具現化、充実発展

- ・プレスクール・アドバイス事業を学校全体で取り組む
- ・65分授業の充実（シラバスの作成と公開）
- ・楽しい授業づくり（生徒の意識調査・研究授業等の活用）
- ・学校行事への参加
- ・環境問題について考え行動する
- ・一般社会人の入学を推進させる
- ・会議の効率化
- ・校務分掌の見直し
- ・運動場の除草
- ・厨房作業への支援
- ・パソコンアレルギーの克服
- ・手洗いの励行
- ・学部園作りと環境整備
- ・明るく、きれいな学校をつくる
- ・地域との融和
- ・養護学校のセンター化

Let's Start

—学校自己評価の考え方とすすめ方—

～第1版～



三重県教育委員会事務局研修分野
(三重県総合教育センター)



【1】学校自己評価の基本的な考え方

- 1. よりよい学校をつくろう……………2
- 2. 新しい学校自己評価に向けて動きだそう……………3
- 3. どのように評価するのでしょうか……………4
 - (1) 何を評価するのでしょうか
 - (2) 誰が評価するのでしょうか
 - (3) いつ評価するのでしょうか
 - (4) どこで評価するのでしょうか

【2】学校自己評価の進め方

- 1. P-D-C-Aサイクル……………6
- 2. ビジョンをどう立てるのでしょうか……………7
- 3. 組織・体制……………8
- 4. 保護者・地域との連携……………9
- 5. 評価をどう生かしていくのでしょうか……………10

【3】資料（参考事例）

- 1. P-D-C-Aサイクル……………12
- 2. P（プラン）全体計画……………18
- 3. C（チェック）評価……………19
- 4. A（アクション）更新 公表……………25

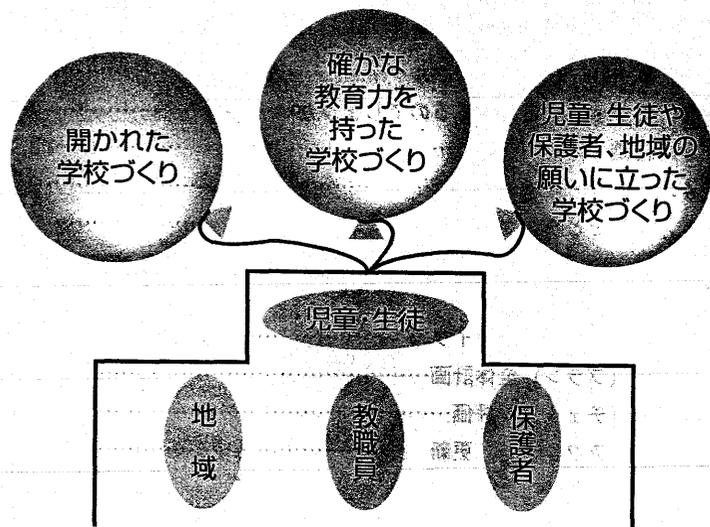
【1】学校自己評価の基本的な考え方

1. よりよい学校をつくろう

一人ひとりの子どもは、それぞれにすばらしい輝きを持ち、ちがうものを持っています。しかも、わたしたちの目の前にいる子どもたちの姿は、家庭や地域のあり方とも関わってさまざまです。子どもたちの豊かな成長・発達のためには、そのさまざまな個性・実態に応じた確かな教育と、その教育を担う学校が求められます。そのため、常に目の前の子どもたちをしっかりと捉え、刻々と変化する子どもたちの姿に応じた学校教育のあり方を追求し、めざす姿に向かってよりよい学校をつくっていくことが教育に携わるものの責任です。

だからこそ、児童・生徒の声はもとより、保護者、地域の人々の声にもしっかりと耳を傾けながら、教育に関わる人々が協働して「わたしたちの学校」の現状を問い直し、学校をよりよくしていくために、学校自己評価への取り組みをすすめていく必要があるのです。

めざす学校の姿



- めざす学校の姿（ビジョン）は明確になっていますか。
- 児童・生徒の声に耳を傾けていますか。
- 児童・生徒の現状をしっかりと把握していますか。
- よりよい学校づくりに向かう体制は整っていますか。

～学校自己評価は、こうしたことを進めるための手段です～

2. 新しい学校自己評価に向けて動き出そう

学校における教育活動は、学校が自らの責任のもとに、主体性を持って意図的・計画的に行います。これまでも学校は教育活動をふり返し、その充実をめざして自ら評価・反省等を行ってきました。

これからの学校は、めざす学校の姿や児童・生徒の姿を明確にするとともに、どこまで近づくことができたのかという視点で振り返り、教育活動を見つめ直し、次の教育活動を創り出していくことがますます重要となります。学校の自己評価は、これからの学校づくりに必要な活動です。

－これまでの学校評価とこれからの学校評価－

	これまでの学校評価		これからの学校評価
	めざしていたもの	おちいりやすい問題点	
目的 (Why)	・学校教育目標の効果的達成	・問題抽出にしか目が向かない ・よかった、悪かったという結果だけを取り上げる	・学校のビジョンの実現（目標達成・向上） ・学校組織開発/職能開発 ・アカウントビリティ（説明責任・結果責任）の履行
対象 (What)	・学校における活動全体 ・教育成果 ・総合的	・すべての学校活動を機械的に羅列 ・学校経営や学校の諸条件に偏りがち ・欠点や問題点のみを取り上げがち	・学校における様々な活動単位（焦点は授業とマネジメント） ・学校の当面する課題 ・プロセスと成果（結果だけではない） ・満足感、達成感、充実感 ・児童・生徒観、教育観、学校観
主体 (Who)	・校内教職員（教員中心）	・管理職及び分掌の一部の教員のみ	・教職員、児童・生徒、保護者、学校評議員、地域の人々など ・相互的
時期 (When)	・学期末、年度末、行事ごと	・どの項目も年度末（年1回）	・短期なもの、中期なもの、長期なもの ・日常的
場 (Where)	・校内 ・職員会議	・教員研修会 ・職員会議だけで	・どこでも ・個人、集団、組織、・・・
方法 (How)	・協議一括 ・アンケート（自由記述） ・アンケート（チェックリスト） ・客観化指向	・印象批判になりがち ・平均などの統計処理にこだわりがち	・様々な方法を用いて診断的、形式的、総括的な視点から ・できることから、できる時に ・周囲の人々を巻き込んで ・数値化指標と主観の尊重

- これまでとの違いがはっきりしましたか。
- おちいりやすい傾向におちいっていませんか。

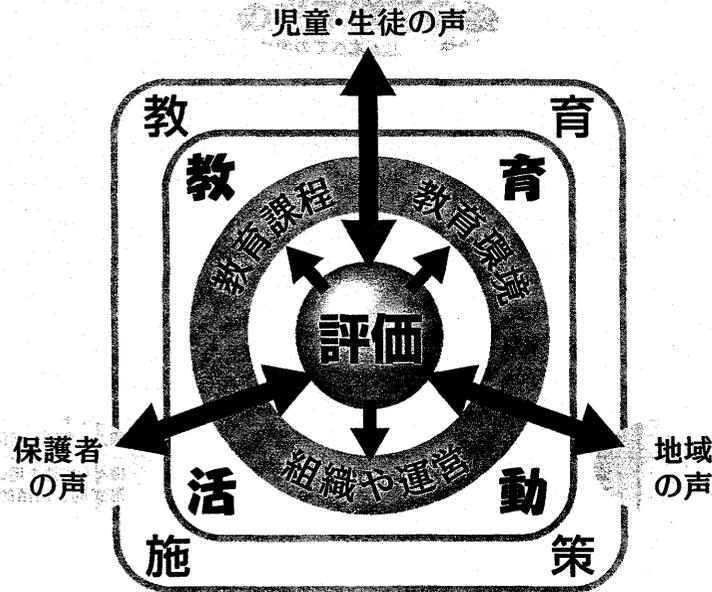
（事例 資料①P.12 資料②P.14）

3. どのように評価するのでしょうか

自分たちの取り組んでいる学校教育について、教育課程（教科・生徒指導・行事等）、組織や運営（校務分掌・地域連携等）、教育環境（教材・施設）などについて、ビジョンに的確に迫ることができたか、具体的に全教職員が保護者、地域の人々の意見を聞きながら常に評価していきます。

(1) 何を評価するのでしょうか

今までも、すべての学校において学校教育課程（教科・生徒指導等・行事）を中心にいろいろな形で「計画・立案・実施・反省・次回への申し送りなど」が行われてきました。これからは、教育活動全体を見つめなおし、組織や学校運営面（校務分掌・地域との連携など）、あるいは教育環境（教材・施設）などの面についても自己評価をすすめていく必要があります。そのとき、学校目標・教育目標達成度を明らかにしていくことが大切です。（関連P. 7）



- 評価項目と教育目標や年度当初の目標とのつながりが明らかにされていますか。
- 多様な面からの評価が行われていますか。

（事例 資料③P.16 資料⑤P.19 資料⑥P.20）

(2) 誰が評価するのでしょうか

教職員が、児童・生徒、保護者、地域の人々からの意見をふまえて行います。そのためにも、学校教育活動を開かれたものとし、常に児童・生徒、保護者、地域の人々と情報を発信・受信しあう関係をつくらなければなりません。

（関連P. 9）

学校自己評価をすすめるために、必要な場合には推進組織などの組織作りを行う必要があります。

（関連P. 8）

○児童・生徒、保護者、地域の人々の意見が評価に反映されていますか。

○校内のすべての教職員が評価に関わっていますか。

（事例 資料③P.16 資料⑥P.23 資料⑨P.24）

(3) いつ評価するのでしょうか

計画(Plan)、実施(Do)、評価(Check)、更新(Action)のそれぞれの段階で行います。また、これらのサイクルが1年周期のものもあれば、数週間、数ヶ月といった短いものもあります。サイクルの短いものは授業や行事などで、何度も繰り返されます。このような活動は実施後すぐに見直し、その結果を次の実施に反映させることが大切です。評価の時期は特定されません。

（関連P. 6）

○さまざまな反省が2月3月に集中していませんか。

○常に教育について見直しを行っていますか。

（事例 資料①P.12 資料③P.16）

(4) どこで評価するのでしょうか

評価する内容や評価者は多岐にわたります。そのことで学校自己評価をする場面も様々になってきています。たとえば、日々の授業などについては個人的にP-D-C-Aサイクルで行われることが日常ですし、学校教育目標の根源に関わるようなものであれば、職員会議など全体の場で十分な論議をすることが必要です。また、会議の場だけではなく、懇談会やPTA活動、家庭との連絡の際などいろいろな活動の場でも実施されます。

○いろいろな場面で評価活動をしていますか。

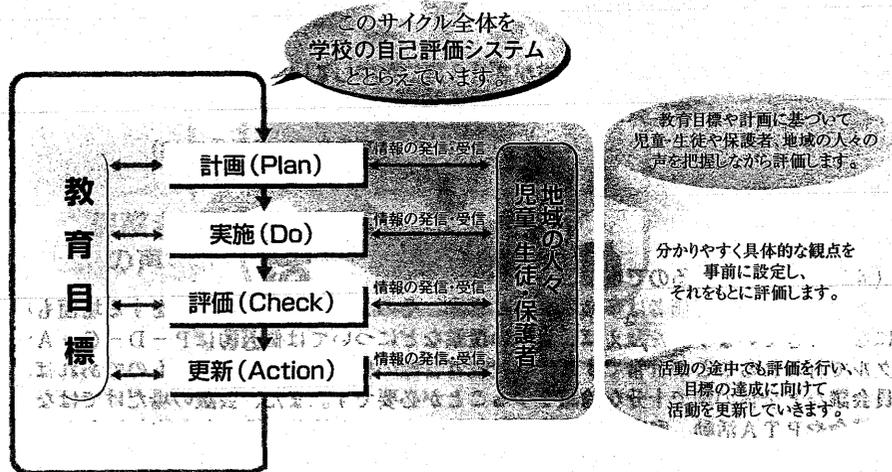
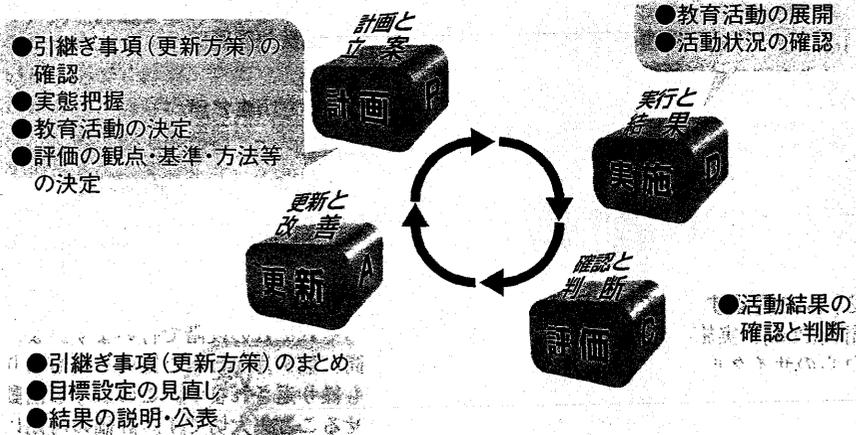
○評価を公表していますか。

（事例 資料①P.12 資料②P.14）

[2] 学校自己評価の進め方

1. P-D-C-Aサイクル

学校の自己評価は、教育目標に基づき、計画（Plan）を立て、実施（Do）し、実施したことを目標や計画に沿って評価（Check）し、その結果をもとに更新（Action）に至るといシステムの中で行っていきます。そのとき、すべてのプロセスの中で、情報の発信・受信が行われることが大切です。



○評価によって更新したものが次の計画に生かされていますか。

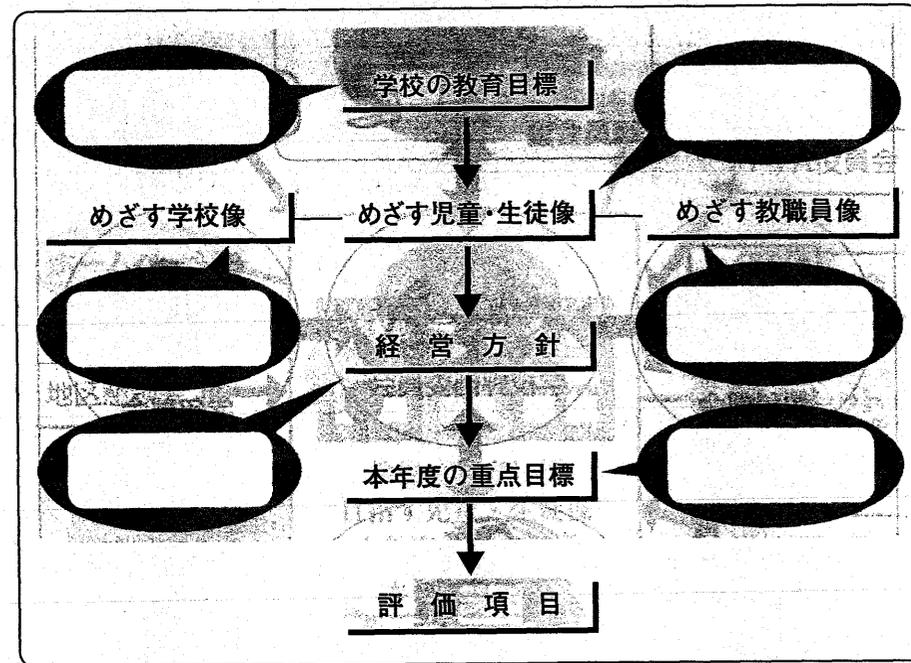
(事例: 資料①P.12 資料②P.14 資料③P.16)

2. ビジョンをどう立てるのでしょうか

ビジョンとは、学校の果たすべき役割・使命（ミッション）に基づき、それを実現するための学校経営のあり方を明確にしたものです。

学校のビジョンは、児童・生徒、保護者、地域の人々の願いや学校の実態をふまえて作成され、教育目標、めざす児童・生徒像、経営方針、本年度の重点目標などによって具体的に示されます。これらは、全教職員が共通理解をして共有するとともに、保護者や地域の人々にも具体的に示されることが大変重要です。

ビジョンの構築



○の中に自分の学校のものを記入してみましょう。

めざす児童・生徒像は、児童・生徒の姿で具体的に表すことが大切です。学校教育目標の実現に向けて、学校の中期・短期双方の視点から取り組むべき課題を明確にし、実現するための道筋を明らかにすることが大切です。

○ビジョンを達成するために、評価項目が設定されていますか。

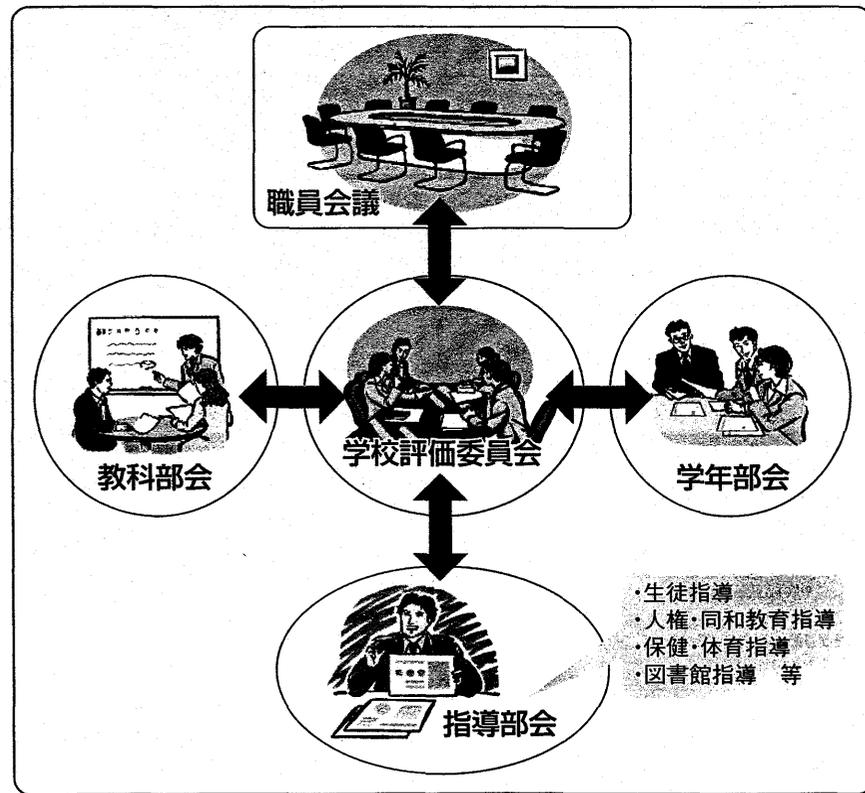
○目的が具体的でないものや達成不可能なものはありませんか。

3. 組織・体制

学校の自己評価は、学校で働くすべての教職員が専門性を発揮し、共通認識のもとに進めていくことが大切です。大規模校など学校によっては、教員や分掌間の連携を図るため、推進組織を作ることが有効になります。

教職員の意思を反映できる構成を各学校で考えることが大切です。

推進組織（例：学校評価委員会）



推進組織の役割

P-D-C-Aのサイクルの中で学校の自己評価を計画的・組織的・継続的に進めていくとともに、一人ひとりの教職員の学校、経営への参画意識を高めていきます。

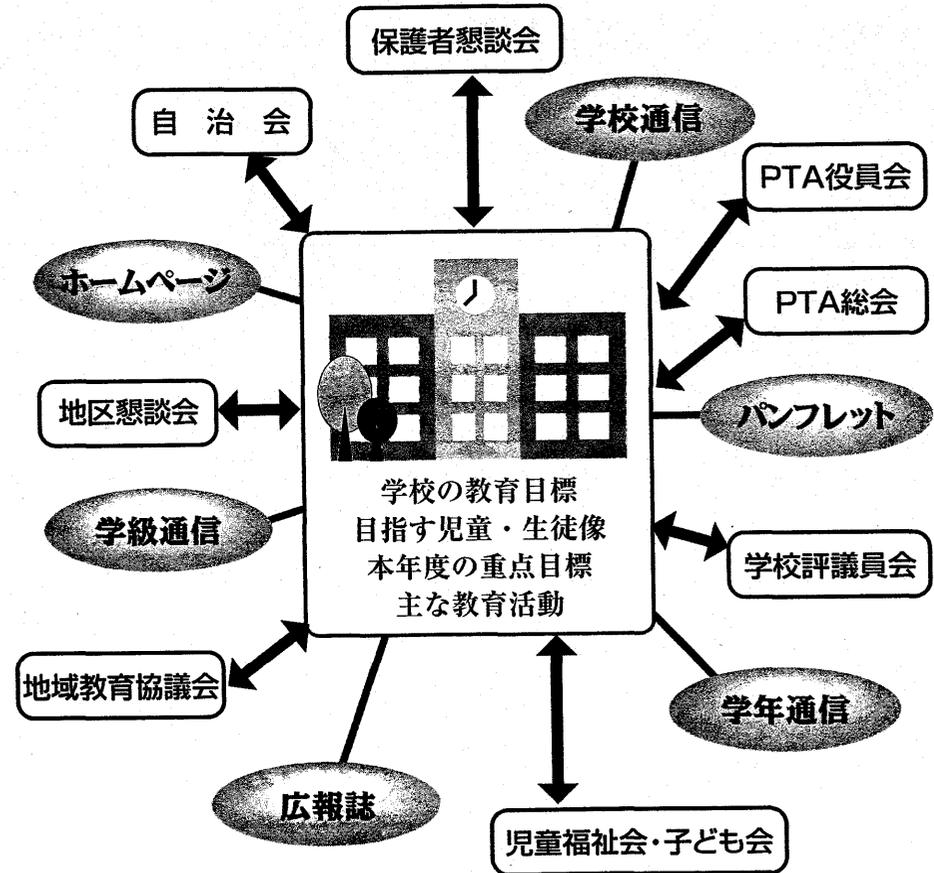
- これまで個々に動いていた組織をチームとして動かしていますか。
- 子ども理解をしっかりと、教育理念について十分な論議ができていますか。

4. 保護者・地域との連携

学校自己評価活動は、教職員による評価だけでなく、保護者や地域の人々による評価も積極的に取り入れながら、評価活動の客観性を高めていくことが重要です。そのことが、アカウントビリティ（説明責任・結果責任）を果たすとともに、結果として、保護者や地域からの信頼や協働しようとする意識が高まることにつながります。

そのためには、保護者や地域の人々に学校の情報を発信・受信する方法を工夫していかなければなりません。

学校からの情報の発信・受信

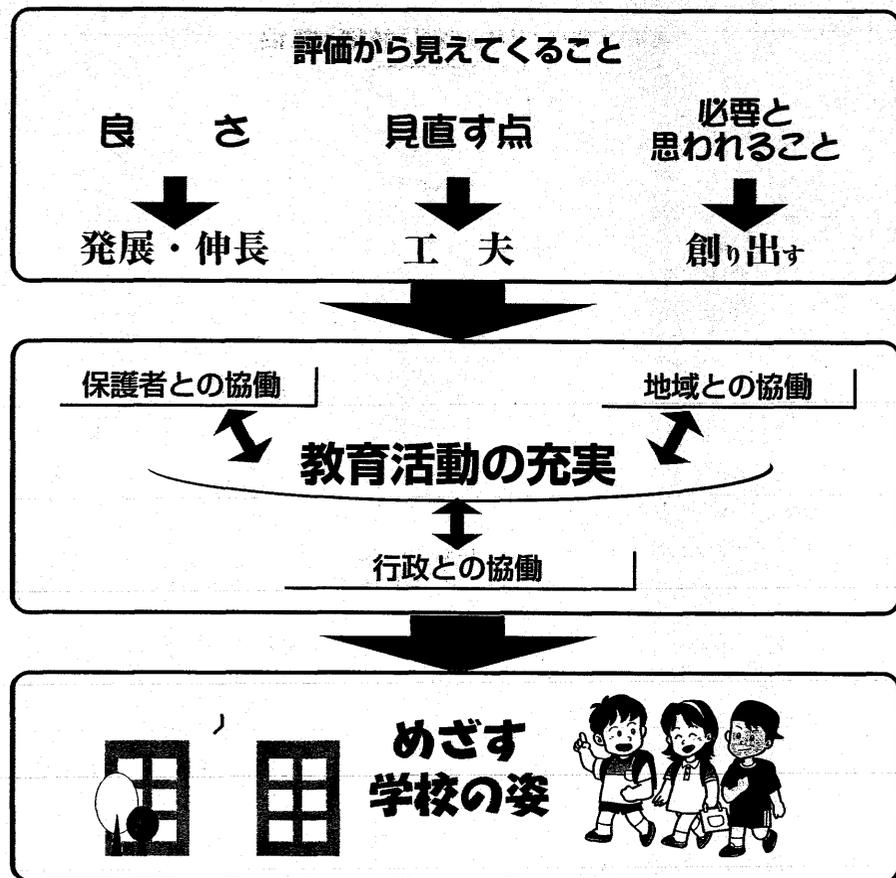


- アンケートや懇談などでもらった意見や要望を大切にしていますか。
- 保護者や地域の人々と日常的に情報のやりとりをしていますか。

（事例 資料⑨P.24 資料⑩P.25 資料⑪P.26 資料⑫P.27）

5. 評価をどう生かしていくのでしょうか

学校自己評価をすることによって、学校が持っている「良さ」や「見直す点」、「必要と思われること」などが明らかになるでしょう。これらの明らかになった点を発展・伸長、工夫、創出することによって、教育活動を一層充実させるとともに、教育施策へも反映されることが考えられます。その結果として、めざす学校の姿に近づいていくことになります。



- 何のために学校自己評価を行うか、目的が明確にされていますか。
- 評価の方法は学校の実情や地域性をふまえて工夫されていますか
- 児童・生徒、保護者、地域の人々との信頼関係を大切に、学校自己評価を行っていますか。
- 評価結果を教育施策に反映させるために、行政にも情報を発信していますか。

【3】資料(参考事例)

1. P-D-C-Aサイクル

- 資料① 小学校での取り組みの例112~13
- 資料② 小学校での取り組みの例2 14~15
- 資料③ 中学校での取り組みの例 16~17

2. P (プラン) 全体計画

- 資料④ どのように計画を進めていくのか 18

3. C (チェック) 評価

- 資料⑤ 評価表1 どのように評価をしていくのか 19
- 資料⑥ 評価表2 どのように評価をしていくのか 20~21
- 資料⑦ 評価表3 どのように評価をしていくのか 22
- 資料⑧ 評価項目 評価基準の例 23
- 資料⑨ アンケート 保護者の声をどうとらえるか 24

4. A (アクション) 公表 更新

- 資料⑩ 学校だより 保護者や地域にどう公表するか 25
- 資料⑪ 学校だより 保護者や地域にどう公表するか 26
- 資料⑫ 学校ホームページ 保護者や地域にどう公表するか 27

この冊子を作るために、学校自己評価小中学校ワーキンググループは、会議で議論を深めるとともに、県内の学校を訪ね、どのような資料が必要なかの調査を行ってきました。その中で、いつも出されたのは、参考事例をという声でした。しかし、県内には、すでにP-D-C-Aサイクルを使って活動を始めている学校がある一方で、まだ必要性を感じられない学校があるなど、その取り組みはさまざまです。また、地域性や学校規模のちがいなどにより、必要性も多様化しているといった現状があります。

そこで、さまざまな参考事例を提示することで、各学校の状況に応じた次のステップへのヒントになればと考え、この資料づくりに取り組みました。この資料の中では、これから取り組みを始める学校の参考になる事例や実施のために会議や研修を重ねている学校に役立つ事例など、さまざまな取り組みを紹介しています。

資料① P-D-C-Aサイクル-小学校での取り組みの例1-

県内の小学校での取り組みを参考に作成しました。

1. 学校自己評価の進め方 (11月以降の取り組み)

(1) ねらい

- ・11月までの教育活動の現状と年度末までの見通しについて、課題の洗い出しを行い、原因と対応を話し合う資料とし、長期展望に立った課題把握に務める。

(2) 具体的な進め方

- ・評価項目は、昨年度に決定したものとし、全項目文章記述とする。
- ・前例主義を廃し、各自の思いや願いを自由に記述し、次年度への改善策とする。

① 学校評価計画案「私の学校改善策」の提出 (11月 下旬)

- ・学校評価のねらい
- ・評価項目・観点提案
- ・評価計画・日程

各分掌に対して提出を求めた用紙
各分掌から職員会議で是非評価を
受けたいというものがあれば、提
出する

問題点・改善点

「私の学校改善策」

※「是非この点について評価を受けたい」「皆さんの意見を聞きたい」という点があれば評価の項目・観点を提出してください。

(係名)

〈 評価の項目・観点 〉

例 朝の読書時の読書量
集会時の発言の態度 等

例 基礎的な学習内容の定着
自主的な生活態度の育成 等

② 個人により評価・記入 (12月 月上旬)

- ・評価観点にどこまでせまることができたか
- ・今年の実践はよかったのか
- ・ここに問題がある
- ・もっとよい方法がある
- ・ここを改善したい

数値による評定はせず、全項目
文章記述とし、それぞれの思い
を自由に記述

③ 職員会議 (12月 中旬)

- ・提出されたカードを読み合わせしながら、内容を確認する
- ・日常的な問題で、すぐに解決できるものはその場で解決し、即実践する
- ・次回以降の会議で、検討すべきことの整理確認

④ 作成 (冬季休業中)

- ・自分ならこう学校を変える
- ・課題は具体的にどのように解決する
- ・夢や思いを実現したい
- ・こんな思いつきやひらめきを大切にしたい

⑤ 全教職員による共通理解

職員会議	1月下旬	「わたしの学校改善策」を受けて
職員会議	1月下旬	同上
分掌反省会議(分掌ごと)	1月下旬～2月上旬	
職員会議	2月上旬	分掌反省会議を受けて
職員会議	2月中旬	同上

—更新および次年度の計画—

⑥ 次年度へ向けての方針の検討

次年度学校経営方針提示	2月 中旬
職員会議 次年度教育計画編集方針提案	2月 中旬
分掌会議 新年度教育計画の検討	2月 下旬

⑦ 公開

P T A 総会・参観 本年度の反省結果と新年度の経営方針を保護者に説明

⑧ 職員会議 新年度教育計画検討 3月下旬

次年度

⑨ 職員会議 新年度計画の確認 4月上旬

⑩ 分掌会議 新年度計画の確認 4月上旬

※1校における流れを例示しました。学校全体で評価活動をすすめている様子がわかります。
※1年間のP-D-C-Aサイクルがわかります。

資料② P-D-C-Aサイクル-小学校での取り組みの例2-

藤原町立立田小学校

学校行事「山の神」の取り組みより

自己評価	活動内容
計画 (Plan)	<p>○昨年度の総括と本年度の子どもの姿、つきたい力から目標の決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り集団のつながりを深める ・自分たちで計画し自ら考え最後まで行動する力をつける ・保護者や地域の方々とふれあう場とする ・地域の文化を継承し、先人の生きざまの尊さに学ぶ <p>○目標達成に向けて、組織・運営・内容を決定 教職員で話し合い(全体・地区担当)</p> <p style="text-align: center;">学校の方針を説明し具体的内容の決定</p> <p>教職員と清水会(敬老会)との話し合い 教職員と育友会(PTA)との話し合い 子どもと育友会との話し合い 子どもと教職員との話し合い ※学校、地域、家庭、子どもの願いや思いからカリキュラム決定</p> <p>○目標達成にむけて、評価の観点・方法等を決定 ～「子どもたちに豊かな生活を体験させよう」～</p> <p>【評価の観点】 ※ 運動会より</p> <ol style="list-style-type: none"> ①反省をいかして計画する力 ②人と関わる力 ③子どもの豊かな生活を広げるために、学校・地域、家庭が連携して動けたか <p>【評価の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの試し炊きの様子を各地区担当が見つめていく ・連携部分については、各組織で話し合う際に、子どもを視点にした話し合いがなされているかを評価していく
実施 (Do)	<p>○子どもたちの試し炊きへの参加(学校・家庭)</p> <p>○準備等の会議への参加</p> <p>○3点(評価の観点)についての随時評価</p>
評価 (Check)	<p>○各学年で、発達段階に応じて反省会(話し合い、ノート)</p> <p>○地区集会において、子どもの思いを尊重しながら目標達成に向けて支援</p> <p>○地区担当者会議を随時持ち、3点について評価し、さらに方法を考える</p> <p>○保護者からの連絡ノートにより子どもたちの思いをつかむ</p> <p>○学年日より、学校日よりで子どもの姿を発信</p>

更新
(Action)

- 地区担当者会議で出された課題点について、子どもと相談し、方法を考え、次の試し炊きに生かしていく
- 山の神当日、一人ひとりが計画にそって動けるように支援
- 山の神を終えて、保護者より感想を回収
- 研修会で、3点について評価
- 各組織(育友会・清水会)より意見を聞き、来年度に申し送る

地域とともに創るカリキュラムへの一步＝「山の神」

立田小学校は、15年前から開始された「山村留学制度」と、8年前から始まったゲンジボタルの飼育・観察研究を土台にして、地域の中の学校として地域のすべてを学習教材とする「屋根のない学校」の実践を推進しています。

「子どもが主役」「学校づくりは地域づくり、地域づくりは学校づくり」という山村留学制度の理念と、私たち教職員が目指す学校像(地域の人たちの思い、願いを取り入れ生かすことのできる授業や活動づくり)が一体となって、この行事は続いてきました。

単に「山の神」を恒例の行事として踏襲するのではなく、子どもにつきたい力は何なのかを子どもの姿から明確にし、組織・運営・内容を検討しています。また単発的な取り組みにならないように、9月の運動会での課題をこの行事でどのよう改善していくのかを評価の観点にしています。さらに、12月の「山の神」で見えてきた子どもたちの姿から、学級集団づくり、授業づくりでどんなことが必要かを明確にし、3学期の学級経営につなげていけるように研修を推進しています。このように、子どもたちの力をひきだすために、P-D-C-Aサイクルを大切にしています。

ここ2年の「山の神」では、子どもたちが、地域の中でたっぷり豊かな体験をし、地域の中で子どもたちの生き生きとした声が聞こえる一日にしたいと考えました。そこで、午前中は、清水会(敬老会)の皆さんと一緒にカリキュラムを組んでいます(昨年度一昔の遊び、本年度一地域めぐり)。午後は、手作りのかまどを使ってご飯を炊き、子どもたちが地域の方々をお招きし一緒に夕飯を取ります。

このように、目標に向かって取り組みを進めるためには、保護者や地域の方々との連携が重要となります。学校の思いを保護者、地域に伝えていく方法を今後も検討し、子どもたちの生きる力をはぐくむ学校づくり、地域とともに歩む学校づくりを目指していきたいと考えています。

※この活動は、藤原町立立田小学校の取り組みですが、保護者や地域の方々との連携の中心に子どもたちをすえ、様々な角度から子どもの活動を見ています。
※一つの事業について、P-D-C-Aのサイクルを意識して活動している点に着目しました。
※それぞれの取り組みの中で、保護者や地域との関わりを大切にしている点に着目しました。

資料③ P-D-C-Aサイクル—中学校での取り組みの例—

県内の中学校での取り組みを参考にして作成しました。

学校・学校経営の評価の流れについて

評価の進め方

学校が、その役割をどの程度果たしているかを、総合的・客観的に評価し、その結果に基づいて、学校が行う活動全般における改善策を立て、学校教育の充実、向上を図ることをねらいとする。

- (1) よい点や成果は継続して、一層の充実、発展を目指す
- (2) 問題点や不十分な事項について改善する
- (3) 問題点や不十分な事項で改善の見込みがないものは廃止する
- (4) 新規導入により、活性化を図る

日常の反省

企画委員会、職員会議を通して、計画(Plan)、実施(Do)、評価(Check)、更新(Action)を繰り返していく。その中で、展望を見つける。

総括の仕方について

1. 7月の職員会議

校務分掌について、1学期間の反省を担当者の自己評価としてまとめていく(表1 P.17)。

最終的に、職員会議に出し合い、討議し、2学期へ生かすものにする。(第I期総括)

○視点は、

学校教育目標【明るくたくましい心身を持ち、心豊かな生徒の育成】

重点項目 1 基礎・基本の定着 2 体験活動の充実と重視 3 交流活動の充実と重視
4 情報教育の充実と重視 5 基本的な生活習慣の形成

○校務分掌上反省をあげる項目と担当()は、分掌担当者

- ・企画委員会(学校行事・総合的な学習の時間) ()
- ・校内研修 ()
- ・道徳教育 ()
- ・部活指導 ()
- ・生徒会指導 ()
- ・3年学級指導 ()
- ・勤労体験および清掃指導 ()
- ・人権教育同和教育 ()
- ・図書館教育 ()
- ・情報教育 ()
- ・1年学級指導 ()
- ・保健衛生指導 ()
- ・教科指導 ()
- ・進路指導 ()
- ・生徒指導 ()
- ・2年学級指導 ()

表1 自己評価 1学期チェック表

1 学期自己評価 (分掌名 _____ 担当者名 _____)	
—明るくたくましい心身を持ち、心豊かな生徒の育成—	
1 基礎・基本の定着について	
めざす生徒の姿 (取り組みの到達点)	
行った具体的な取り組み	
取り組みに対する生徒の反応	
取り組みに対する保護者の反応	
やってよかった点	
できなかった点	
改善を考えている点	
その他 気づいたこと	
2 体験活動の充実と重視	
めざす生徒の姿 (取り組みの到達点)	
行った具体的な取り組み	
取り組みに対する生徒の反応	
取り組みに対する保護者の反応	
やってよかった点	
できなかった点	
改善を考えている点	
その他 気づいたこと	
3 交流活動の充実と重視	
(以下省略)	

2. 第2回目の総括

11月にアンケートを配布し、結果を集約して1月の職員会議で行う。その中で各校務分掌上、反省と今後の課題を打ち出してもらおう。それを受けて、来年度のための見直しを重点にした企画会議に性格を改め、継続し、次年度への試案を作成する。(第II期総括)

3. その試案を職員会議で確認し、次年度への申し送りとする。

※7月と1月の職員会議で評価を行っている点に着目しました。早い時期の総括は、年度内での改革につながります。特に、2学期中にアンケートをし、1月に総括を行うことで、次年度の体制について本年度の評価が生かされます。
※来年度のための試案がつけられている点に着目しました。

資料④ P(プラン)全体計画—どのように計画を進めていくのか—

「学校自己評価の充実に向けて」(三重県総合教育センター)を一部修正しました。

学校教育目標等	1. 授業を充実し、学力の向上を図る。 2. 健全で調和のとれた人間形成に務める。 3. 健康の増進と、安全な行動の習慣を養う。 4. 同和教育を充実させ、人権尊重の意欲を高める。		
学校自己評価取り組み課題	授業の充実をめざした授業研究の実施	学校行事の検討と見直し	
学校教育目標との関わり (取り組み課題設定の理由)	生徒がよくわかり、自主的に学ぼうとする授業を創造する事で学力の向上をめざす。	生徒の、健全で調和のとれた人間形成をめざした行事の実現をめざす。 週休に伴う授業時間の確保と改革を進める。	
具体的な取り組み方策	意思統一の方法 組織体制	校内研修委員会が中心となり全教員が、研究授業をできるようにする。研究授業は、学年公開、全校公開のいずれかとするが、日程の調整を校内研修委員会で行う。	小グループ別での意見集約をもとにして拡大検討する。(企画委員会がこれにあたる)
自己評価公開方法	公開時期 対象 公開方法	今年度末 生徒、保護者、学校評議員 P T A 新聞、同窓会報、学校評議員会	
自己評価取り組み計画の日程概要	実態把握 ↓ 評価基準の設定 ↓ 中間評価の実施 ↓ 自己評価のため ↓ 評価結果公表	6月末まで 6月末まで 9月下旬～10月中旬 1月下旬～2月中旬まで 3月末まで	
その他			

※学校教育目標から自己評価の取り組み課題を設定するとともに、関わりを明らかにしています。また、具体的な取り組みに関するところまで記述しています。

資料⑤ C(チェック)評価表1—どのように評価をしていくのか—

県内の中学校での取り組みを参考にして作成しました。

1学期学校評価表

観 点	教職員の活動	評価をする際の基準
1. よく分かり、学ぶ意欲を高めるための授業の創造	① 授業の工夫 ・学期1回程度の授業公開(観点を決める)	授業公開 学期に2回以上 A 学期に1回 B 授業検討会の実施 C 全く取り組めなかった D
	・授業計画の作成及び公開	作成し、生徒に説明したり保護者に公表したりした A 作成したが公表はしていない B 作成の途中である C 手をつけられなかった D
	・生徒、保護者への説明 (保護者会、学年通信等の活用)	授業に関する説明 懇談で実施 A 通信による説明で保護者の意見を受けとめ答えた B 通信に説明を載せた C 何もできなかった D
2. 基礎的・基本的内容	② 生徒が活躍するための指導法の研究 ・指導力の向上	校内教科研修会の実施3回以上 A 2回 B 1回 C 実施はしない D
	③ 単元内の基礎基本を明確にし、生徒に知らせる	生徒のアンケート 9割以上の生徒がよくわかった A 6割～9割の生徒がわかった B 4～6割の生徒がわかった C 4割以下の生徒がわからない D
	① 個に応じた指導の充実	生徒のアンケート 9割以上の生徒がよくわかった A 6割～9割の生徒がわかった B 4～6割の生徒がわかった C 4割以下の生徒がわからない D
	・意義、目的の説明(説明会の開催)	説明会を実施した 3 実施の検討を行った 2 何もしない 1
	・月1回程度の担当者会議	予定通り実施した 3 2月に1回程度実施した 2 何もしない 1
	・単元内の基礎基本を明確にし、生徒に知らせる	ほとんど生徒に知らせた 3 半分ぐらい 2 ほとんど知らせなかった 1
	・朝の短学活の活用(10分間学習)	授業日の80%は行った 3 50%～79% 2 50%未満 1
	・帰りの会の活用(10分間学習)	授業日の80%は行った 3 50%～79% 2 50%未満 1
	② 放課後の自主学習室の設置	アドバイスにあたる教員を配置した A 個々に応じた教材が用意されていた B 教室は用意したが指導はできなかった C 計画もしていない D

※目指す子どもの姿にせまる観点から、評価項目をあげています。
※評価する際の基準の根拠をはっきりさせていくことで客観性が高まります。

資料⑥ C(チェック)評価表2—どのように評価をしていくのか—

「学校自己評価実施の手引き」より
(三重県総合教育センター)

課題別評価表

取組課題	担当名	
	責任者	
継続課題の更新方策案確認	実態把握 取組課題や具体的教育活動に関する 児童生徒の実態を記述する	
めざす姿 つきたい力や態度等具体的に書く		
具体的教育活動 めざす姿に近づくための教育活動を書く		

※学年はじめに記入しておく
(具体的な基準)

	基 準				
	5	4	3	2	1

※具体的な教育活動を評価するために、行動や数値を使った具体的な基準を設定する。
(中間評価)

活動の 確認		○月 ○日現在		○月 ○日現在	
		実施状況	達成率	実施状況	達成率
評価					

※中間評価の結果を数値や文章で記述する。
※評価のための資料等の保存場所を明記する。
(教育活動・基準の修正)

月 日	教育活動の修正	基準の修正

※中間評価の結果を受けて修正する必要があるものを記述する。

〈評価〉

教育活動の 確認	実施状況	評 定				
		5	4	3	2	1
評価						

※具体的な基準に従って活動状況を確認し、自らの教育活動を振り返ります。その結果をもとに、教育活動の妥当性やめざす姿に対する到達度、めざす姿や具体的基準の妥当性も判断し記録する。

〈更新方策案提案〉

※更新の方向性や活動の具体的な組み立て、活動を支える学校としての体制や教育環境の再設計などを検討しまとめるとともに、次の担当者に引き継ぐ内容や次のPLANにつなげる手だても整えておく。

※学年始に取り組みの課題等を記入、具体的な基準まで決めておいて、その後、中間評価・最終評価をこの表を利用して行います。

資料⑦ C(チェック)評価表3—どのように評価をしていくのか—

尾鷲市立輪内中学校の取り組みをもとにして作成しました。

学習指導面の目標と自己点検・評価(抜粋)

A: 予定以上に達成できた B: 予定通り達成できた C: 予定の半分以上は達成できた
D: 予定の半分も達成できなかった

学習指導面の状況	目標	A	B	C	D
学習指導面の状況	基礎基本について1学期中に検討し、1単元を例にして明確にする				
	学習プリント、ワークシート、マスターシートの役割を2学期までに検討し、指導計画に位置づける				
	体験的な学習、問題解決的な学習を月1回以上実施する				
	指導と評価について1学期中に検討し、活用して評価・評定をする				
	保護者・地域の人・専門家の参加・協力する授業を学期1回以上実施する				
	コンピュータを使った授業を学期2回以上各学年で実施する				
	学習形態を工夫した学びなおしの授業を月1回以上実施する				
	学期始めに評価基準と評価の方法、学期末に結果と改善策を保護者会等で説明する				

- ※ 目標が行動目標で、はっきり判断できるものをあげています。
- ※ 評価する人にもそれを見る人にとってもわかりやすい内容になっています。

資料⑧ C(チェック)評価項目 —評価基準の例—

県内の小学校での取り組みを参考に作成しました。

評価基準チェック表

項目	問題点及び改善の方策
〔目標〕 学習時間を保証し、生活時間にゆとりを生み出す	<ul style="list-style-type: none"> ・よかったと思う。 ・給食開始が12:15頃になるように4限終了の日課にしてはどうか。 ・朝の打ち合わせが早く終わり子どもの朝の会に参加できるのはとてもよかった。 ・朝の時間の検討(8:15~8:40)を要する。25分のトータルは年間にするると約100単位時間にもなる。この時間帯こそ綿密な計画がほしい。マンネリ化に陥りやすい。
〔研究組織と運営〕 機能的な研究組織の構築と運営方法を検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・研修と特活に分かれたのは行事企画運営面からは動きやすかったと思う。同和教育はこの2部は2部として別に部を作ってもらえるとよかったかと一年間を振り返った。 ・研修と特活に分かれたのはよかったが、協議する時間が十分とれていなかった。 ・〈特別活動〉〈研修〉〈人権〉の3つの組織を作るとよいと思う。 ・研修委員会の組織を生かしていきたい。 ・組織としては整っている。協議等の時間設定が難しい。今後、職員研修は長期休業中に多く設けるといった方向をとっていく方がよい。
〔授業研究〕 研究授業を核とした研修の推進と生活科・総合学習の研究の推進を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を通して何が明らかになったか分かりにくかった。 ・全員が総合と生活科でなく、マルチメディアとか様々な分野で実践してもいいのでは…と思う。 ・何とか終わるのに精一杯で、長い視野で総合をどう取り組んでいくのかということを協議できなかった。 ・全員年一回研究授業をすることは、自分に力をつけるためにも必要なことである。研修会の場で出たように話し合いの視点をもう少し絞り込み深まりのあるような内容にしたい。 ・基礎基本の定着に向けて国語の授業研究を校内で行いたい。 ・やはり全員一回は提案していけば…と思う。時期は6月~1月末まででどうか。 ・一人年一回の研究授業はよい。研究協議も(ほめ役、物言いなど)本校の特色があつてよいが、全体討議ではもっと自由な意見交換があつてほしい。
〔情報教育〕 児童が情報の収集や発信の手段としてパソコンが利用できるような系統立てた指導を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信のための操作研修を集中して行う必要があつた。 ・担当者の計画によって順調に進められた。 ・HPが開設できた。 ・職員室に毎日のコンピュータールームの利用学年を明示してほしい。 ・総合的な学習の時間で、年間計画を作って学習できるようにしたい。

- ※このような反省の形式は、これまで多くの学校で取り込まれてきましたが、計画段階で評価項目を立て、その項目に従った反省を行っているところに着目しました。
- ※この小学校では、前年度まで評価項目別に「よかった」「少しよかった」「あまりよくなかった」「よくなかった」の4段階に分けて評価を行っていましたが、児童数・職員数が少ないことで抽象的な段階に意味を見出せず、今年度は段階に分けず職員会議の話し合いの中で計画に取り上げた評価項目について評価を行い、よい点は継続し問題点は改善・廃止していきました。また、評価項目を計画の段階で精選することで、P-D-C-Aそれぞれの段階で視点を定めて子どもを見られることなど、取り組みがすっきりしたそうです。

資料⑨ C(チェック)アンケート—保護者の声をどうとらえるか—

紀伊長島町立三浦小学校の取り組みをもとにして作成しました。

アンケートの依頼文

保護者の皆様へ

「保護者の目から見た学校評価」記入のお願い

〇〇年 〇月 〇日
三浦小学校

..... あいさつ文 省略

記入と扱いについて

- ・無記名で結構です。(秘密は厳守します。)
- ・提出していただいたものは、校内の職員の反省会に使用します。この時点で文章は個人を類推させる部分を変更することがあります。
- ・集計結果と反省の結果(まとめ)は後日学校だより等でみなさまに公表いたします。

次の評価内容についてA～Dの該当する欄に○をつけてください。

- A ; あてはまる
B ; ややあてはまる
C ; あまりあてはまらない
D ; あてはまらない

項 目	A	B	C	D
1 楽しそうに学校に行っている				
2 友達となかよく生活している				
3 学校で出された課題について、自分の力でやりとげようとしていた				
4 地域・保護者の方の協力や場を生かした授業をしている				
5 子ども一人ひとりが大切にされ、認められる学校になっている				
6 教職員が子ども一人ひとりに熱意をもって教育にあたっている				
7 学校は教育方針や課題をわかりやすく伝えている				

※来年度の本校の教育について、ご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

アンケート用紙

※学校自己評価を行うための材料として保護者アンケートを積極的に活用している例です。
※とったアンケートは、集約後、学校内での自己評価の材料とするとともに、次ページのように結果を保護者に返しているところに着目しました。

資料⑩ A(アクション)学校だより—保護者や地域にどう公表するか—

資料⑨のアンケートの結果を保護者に返す取り組みです。

保護者の目から見た「学校評価」(集計結果)

集計結果に、職員会議・PTA役員会での討議を踏まえてコメントをつけてお届けします。

～アンケートの数値での結果は省略～

総体的には、今のやり方を進めていくことを認めていただいたものと解釈しています。ただ、1名であっても「子どもが楽しそうじゃない」「仲良くやっていない」「学力が付いていない」「教員の熱意がない」「方針を伝えていない」「連携できていない」という答えがあるということは、重く受けとめたいと考えます。同様に「C」評価の方の批判も十分配慮して実践していく必要があります。

▶三浦小学校の運動会は他の学校に比べて、子どもと親の出る競技が少ないと思いました。もっと親子で楽しく競技ができるようにしてほしいと思いました。何年前にお正月の飾りを焼くのもしていただけど、これからもそんな行事は続けてほしいと思います。

運動会の親子でできる競技については、増やすことも考えたいと思います。時間数の関係で来年度から行事を見直さなければならなくなりますが、必要な行事、大事な行事は充実させる方向で考えるつもりです。ただ、「どんど焼き」については、支障があって中止したと聞いています。歌や合奏の親子のふれあいについては、学級PTAで考えていったらどうでしょう。

▶運動会では、親子競技で運動したりして親子のふれあいをやっているけれど、運動が苦手な人もいるだろうから、歌を歌ったり、合奏したりして、親子のふれあいをしてもいいんじゃないかと思います。

▶日曜参観日は、親子とも楽しそうだったのでやった方がいいと思います。

▶今年の日曜参観は、とてもおもしろくてよかったと思いました。来年もしてほしいです。

▶日曜参観には、たくさんのお父さんがみえていましたが、そういう場が苦手で行ってくれないお父さんもいます。そういうときは寂しいみたいで個人的には日曜参観をやめてほしいと思います。

▶日曜参観は、両親がそろっていない家族もあり、ない方がいいと思う。

つらい思い、寂しい思いをさせている方には大変申し訳なく思っています。でも、「親が来ると子どもが喜び、そこからスタートするものがある」「普段学校には行かない親が、たまにでも行くことで、他の家の子たちとの関係がわかったり、他の親と関わり合うことで、自分の子が見えるようになる」「親子のふれあいの場となる」・・・といった日曜参観の意義を考えると、大変重要な行事ではないでしょうか？一人ひとりの意見(つらい思いをしているといった意見)を大事にしたいのですが、「日曜参観をやるかやらないか」といった二者択一となったら、やはりやっていただく方がいいのではないのでしょうか？結論は、来年度早々の新役員会と総会の場で十分話し合っ決めていただきたいと思っています。

【PTA役員会で話し合いました】

～以下省略～

※家庭と学校の意見のキャッチボールがなされています。出てきた意見について、「できる・できない」とは別に、はっきり教職員の思いを投げ返しています。

資料⑪ A(アクション)学校だより—保護者や地域にどう公表するか—

県内の小学校での取り組みを参考にして作成しました。

〇〇小学校だより 第62号
なみき 2003.2.28発行

並木も喜ぶかな。～環境デーを行います～

学年末恒例の環境デーを行います。この日は、朝の登校時に通学路のゴミ拾いを行うほか、縦割り班単位で5・6年生が町内をゴミの調査をしながら学校周辺のゴミを拾います。4年生以下の子どもたちは、校内でそれぞれの目当てを意識しながら、学習や活動を行います。

それぞれ進級・卒業を間近に控え、いろいろな思いを持って参加してくれることを期待しています。

当日の各学年の目標は、次の通りです。ご家庭でも話題にしていいただければありがたいです。

- 1年生 ほうき・ちりとりと雑巾を正しく使えるようになる
- 2年生 自分が主に使う物や場所の清掃ができ、次にみんなが使うものの清掃ができる
- 3年生 拾ってきたゴミを適正に分別することができるようになる
- 4年生 学年花壇を耕し、ジャガイモが植えられるように整地を行う
- 5年生 自分たちの生活から出るゴミを減らすための工夫を考え行動をする
- 6年生 ゴミが多く落ちている場所を見つけ、その原因を考え、ゴミをなくすための行動を考える

スクールボランティアのみなさんよろしくお願いたします。

今回は、1年生の清掃用具の使い方の練習に助言いただく方と5・6年生の校外清掃時に事故防止のため監視のお手伝いをいただく方に分かれていただきます。いつものように、活動が終了した後、ご意見カードへの記入をお願いいたします。

いよいよ3月です。3月は集立ちの時期・反省の時期・脱皮の時期

今年は、3月18日に96人が卒業する予定です。

先日は学校自己評価のためのアンケートにご協力いただきありがとうございました。その集約は、現在職員会議で自己評価をする際の資料として真摯に受け止めています。こちらから皆様にお返しすべき内容につきましては、4日のPTAの総会で学校長から1年をふり返って説明をさせていただきますが、この「なみき」でも特集をしていく予定です。もうしばらくお待ちください。お楽しみに。

- 3月 4日(火) 学校環境デー 午後PTA総会
- 5日(水) 3月集金日
- 10日(月) 縦割り班別 お別れ給食
- 14日(金) 卒業式練習 6年生大掃除
- 18日(火) 卒業式
- 19日(水) 給食最終日
- 24日(月) 終了式 (20日とも11時30分下校予定)

※学校からの情報を日常的に発信しています。学校だよりは、一方的なお知らせだけではなく、学校自己評価をすすめていくための情報を発信・受信する役割もあります。

資料⑫ A(アクション)学校ホームページ—保護者や地域にどう公表するか—

※紙面の都合で例示はできませんでしたが、三重県内には、インターネットのホームページを立ち上げる学校が増えてきています。ホームページは、子どもたちの活動や学校の様子などを広く紹介するもので、多くの情報が詰まっています。ここに、教育目標やめざす児童・生徒像など学校のビジョンや自己評価に関する項目を掲載することで、保護者や地域の人々が学校に対してより理解を深めるための資料となります。

※学校自己評価の情報発信に利用してみたいかでしょうか。

※検索用ソフトなどで「学校自己評価」を検索すると、いくつかの学校のホームページを見ることができます。学校自己評価というサイトにはなくても、県内の小中学校のホームページもインターネット上に多数掲載されていて、学校の情報を発信しています。

※ホームページは個人のプライバシー等も簡単に流れることがありますので、作る際には、写真や児童・生徒名など十分なチェックが必要です。また、第三者が故意に内容を変更させたりすることもありますので、常に確認をする必要があります。

